Strategic Intelligence Briefing

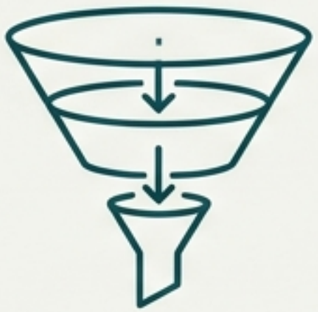
中国特許出願の真の姿

量と質の「二層構造」がもたらす知財ランドスケープの変化と戦略的示唆



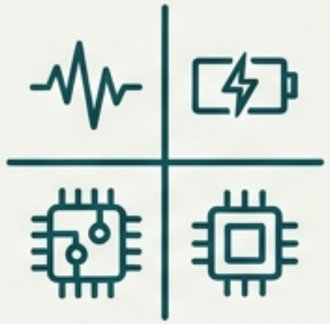
Gemini Notebook

Executive Summary: 固定観念の打破



構造 (The Structure)

「巨大な国内出願」と「勝てる特許だけを抽出した国際出願」の二層構造。国外出願比率はわずか6.9%。



分野 (The Sectors)

通信とバッテリーは量・質ともに世界トップ級へと精鋭化。AIと半導体は依然として国内完結型。



脅威 (The Global Threat)

日米欧の特許庁へ抽出された特許が侵攻。EPOでは登録が急増(+32.8%)し、日本を抜いて出願元3位へ浮上。

Gemini Notebook

The Strategic Filtration System：精鋭化される国際出願

国内出願 177.5万件

海外出願を行う企業はわずか5.8%

PCT出願 7.3万件（約4.2%）

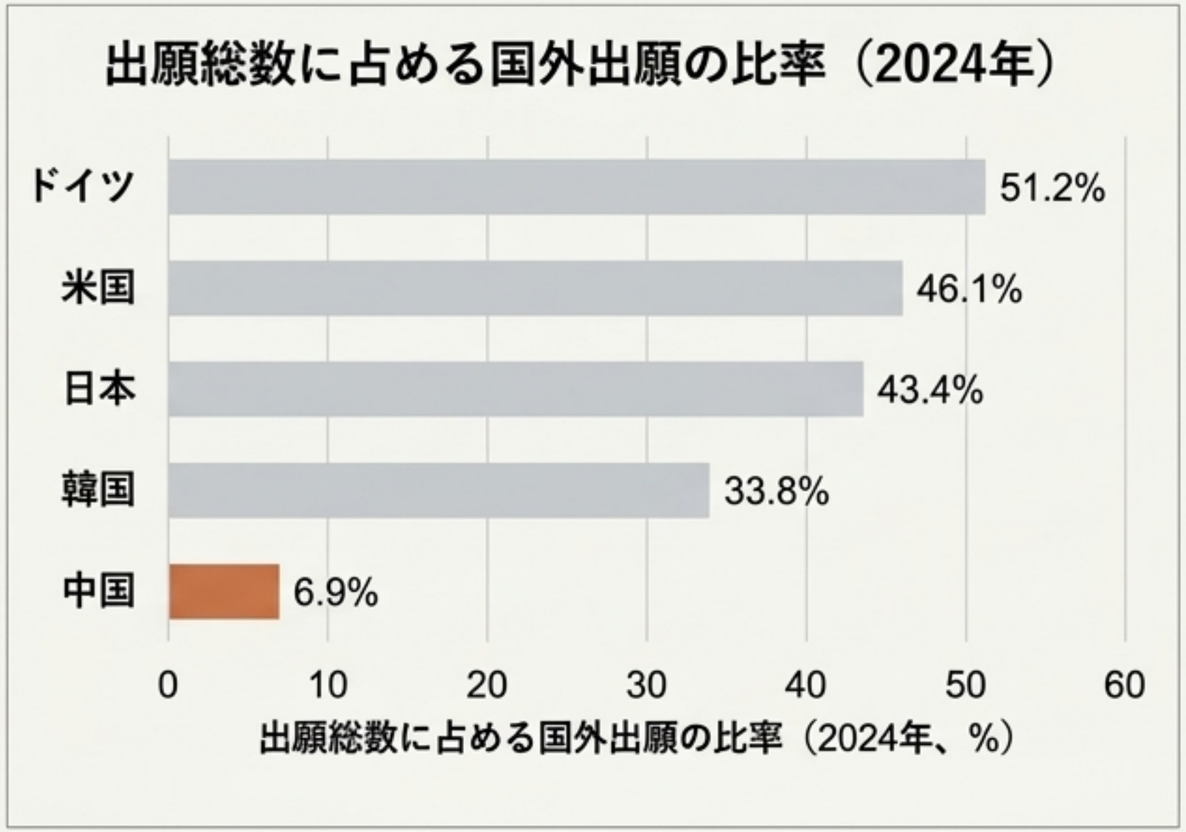


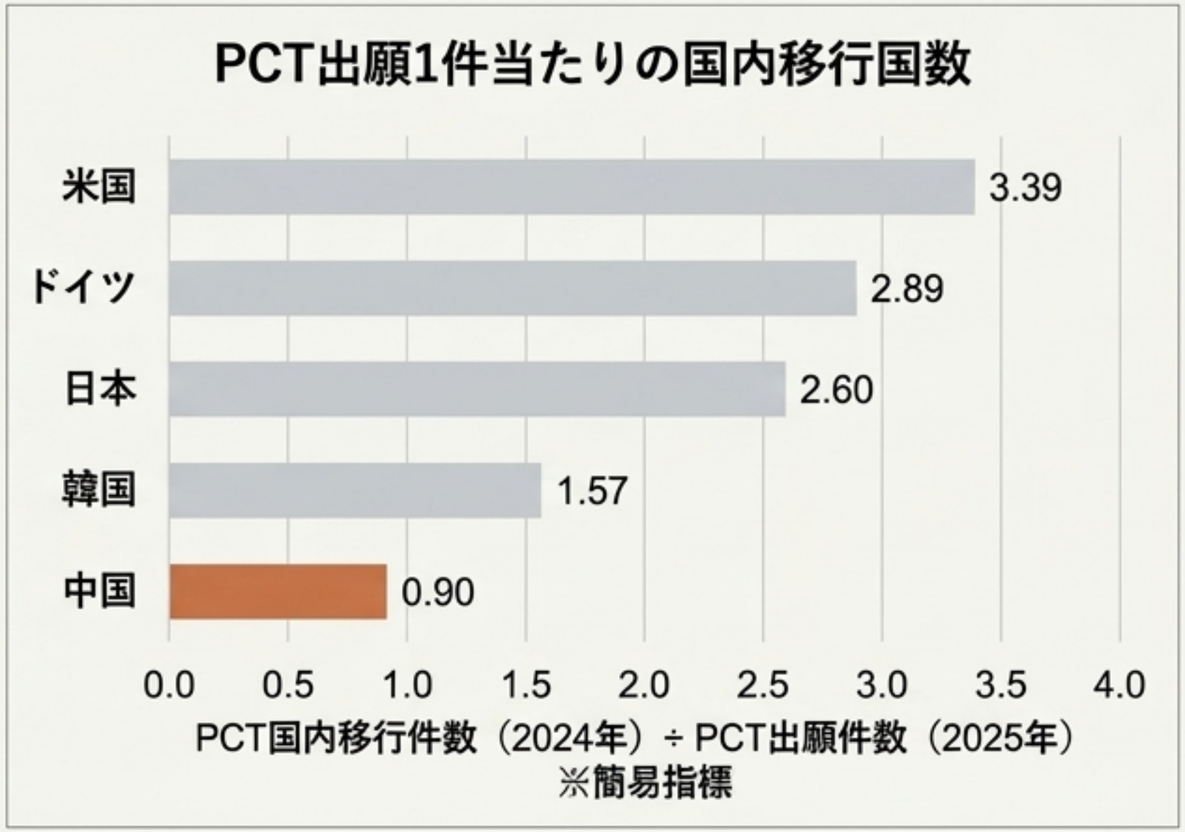
Key Insight:

中国の特許活動の93〜96%は国内で完結。我々がグローバル市場で直面しているのは、厳格なフィルターを通った「抽出された黄金の滴」である。平均値で脅威を測るべきではない。

Gemini Notebook

マクロデータが浮き彫りにする「特異な出願構造」





「最低の国外出願比率」と「極端に少ない移行国数」。これは、中国企業が真に価値を見込んだ特許のみを厳選して国外へ送り出し、無駄な権利化コストを徹底的に排除していることを示唆している。

Gemini Notebook

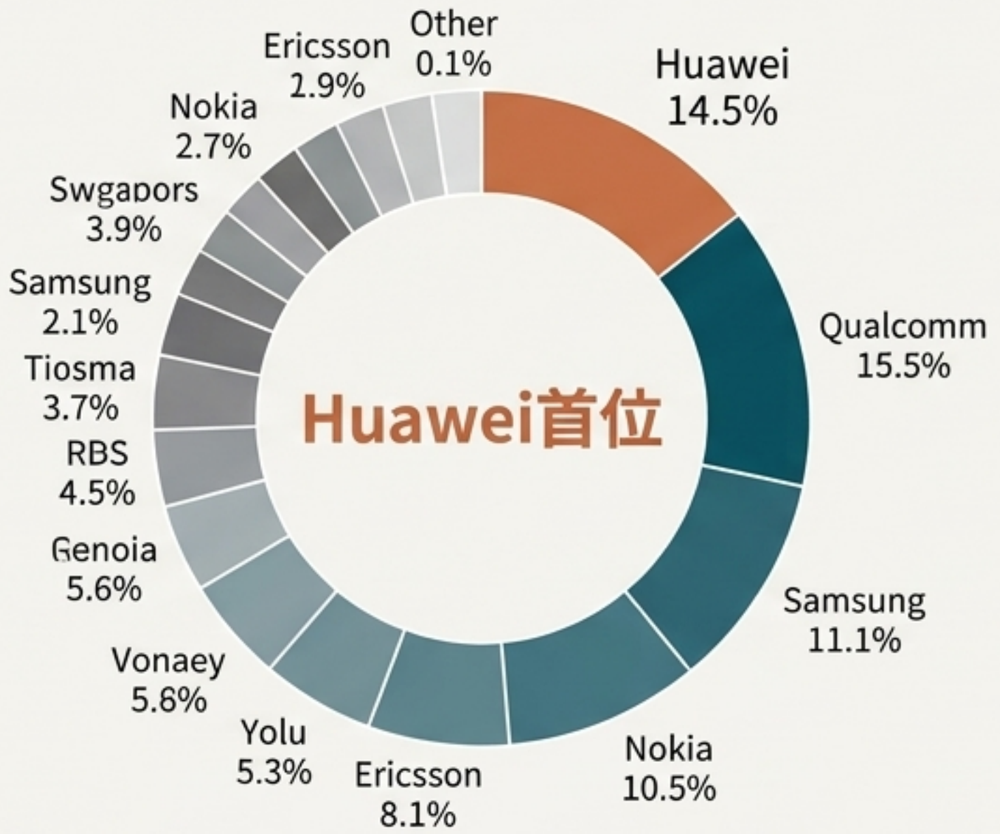
Sector Diagnostic：4大技術分野のコンポジット・マトリクス

分野	量	国際化	質	総合評価
通信	●	●	●	量・質・国際展開すべてで世界トップ級。Huaweiが牽引。
バッテリー	●	◐	◐	量・国際化とも強い。全固体電池とは日本が優位。
AI	●	○	○	圧倒的な登録数（74%）だが、国際化・被引用は米国優位。
半導体	◐	○	○	国内完結型。ただしEPOでの出願急増など変化の兆しあり。

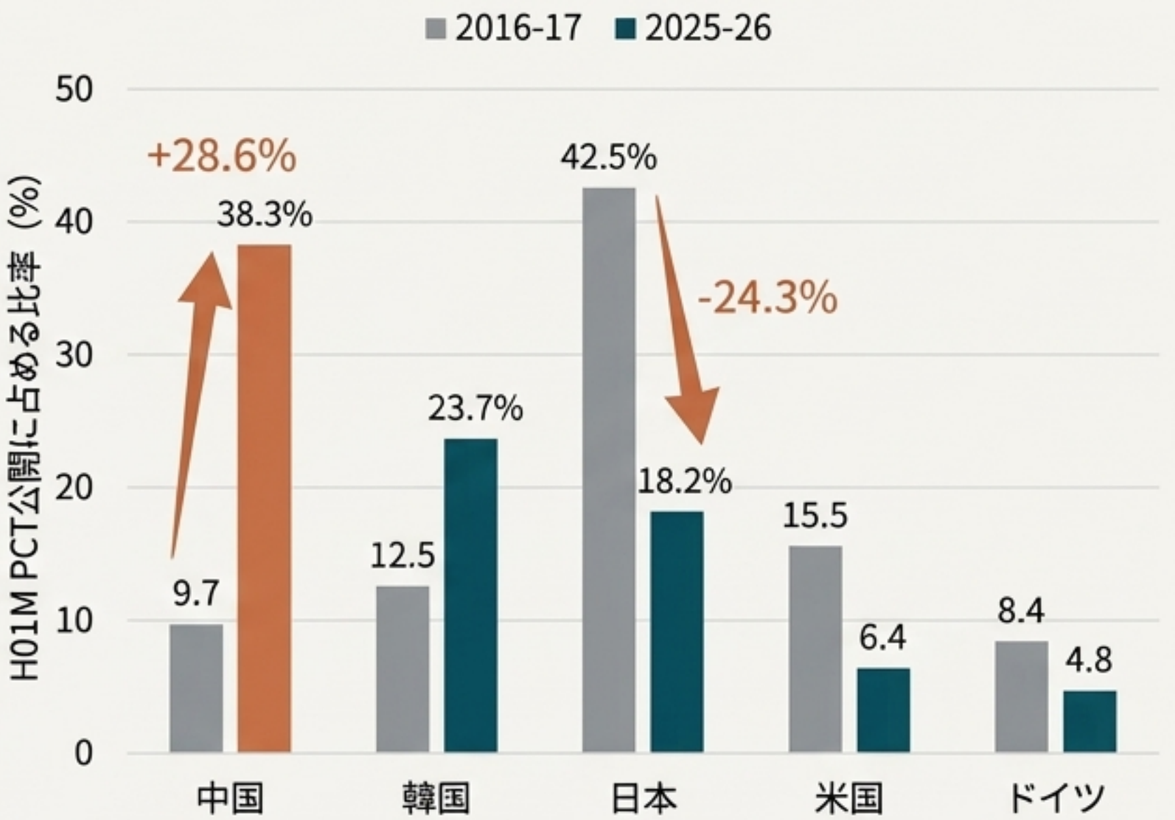
Gemini Notebook

世界を牽引するフロントランナー「通信とバッテリー」

通信：5GコアSEPの企業別シェア



バッテリー：H01M（電池）PCT公開比率の推移

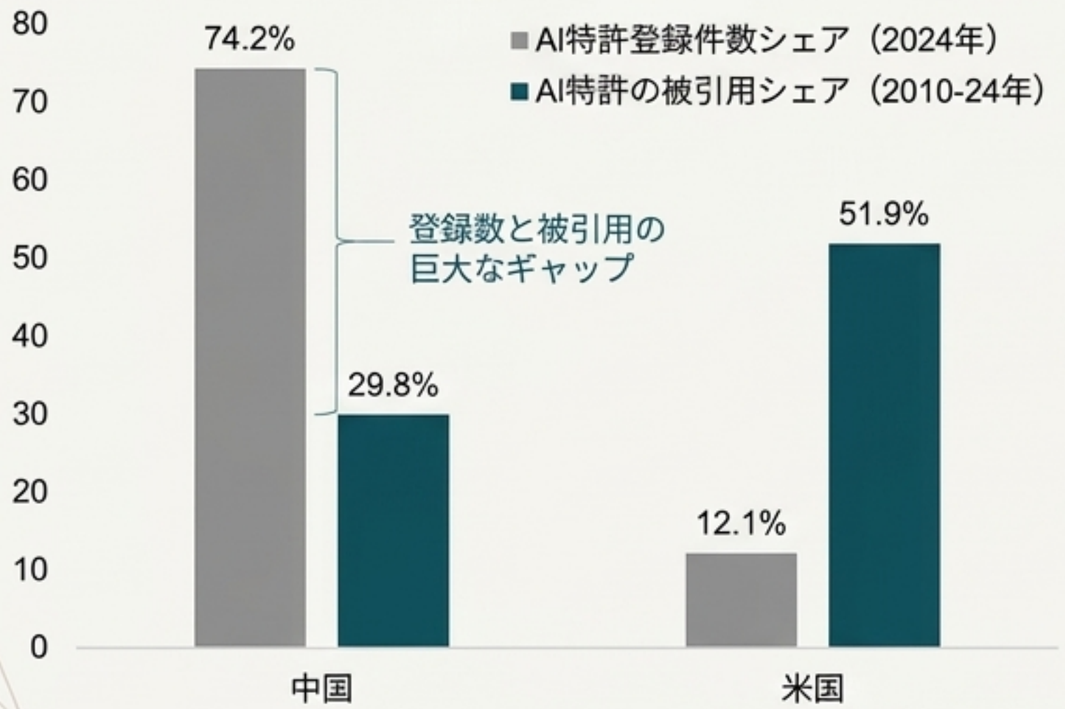


Strategic Insight: バッテリー分野は量で逆転されたが、次世代の「全固体電池」においては質の面で日本がトップを維持している。この優位領域での知財網構築が急務。

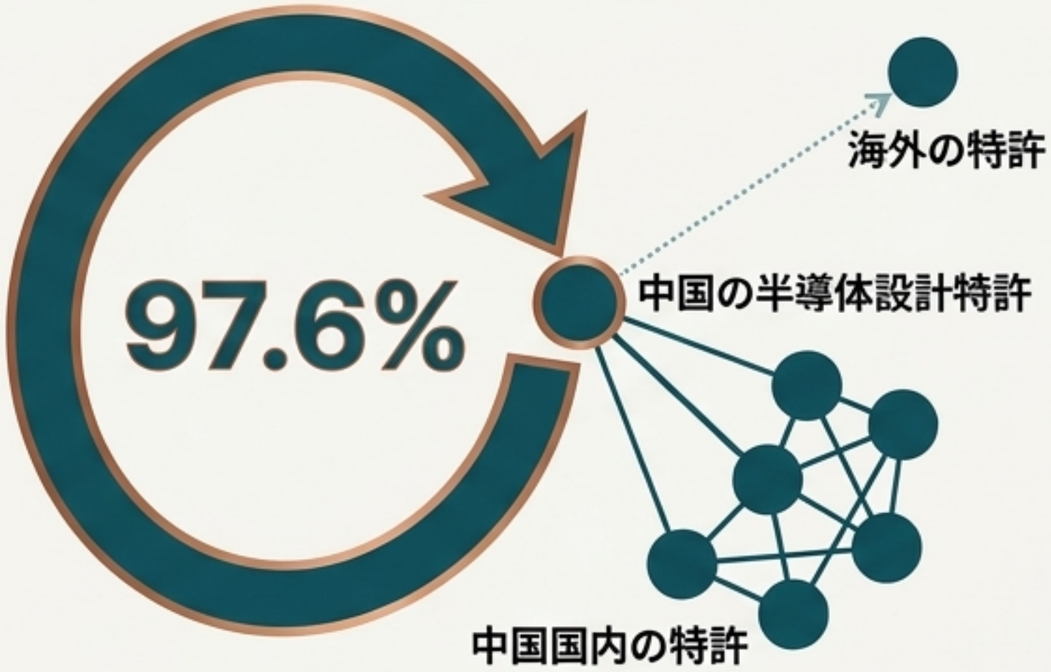
Gemini Notebook

巨大な国内プールに留まる「AIと半導体」

AI：登録数と被引用の「ねじれ」



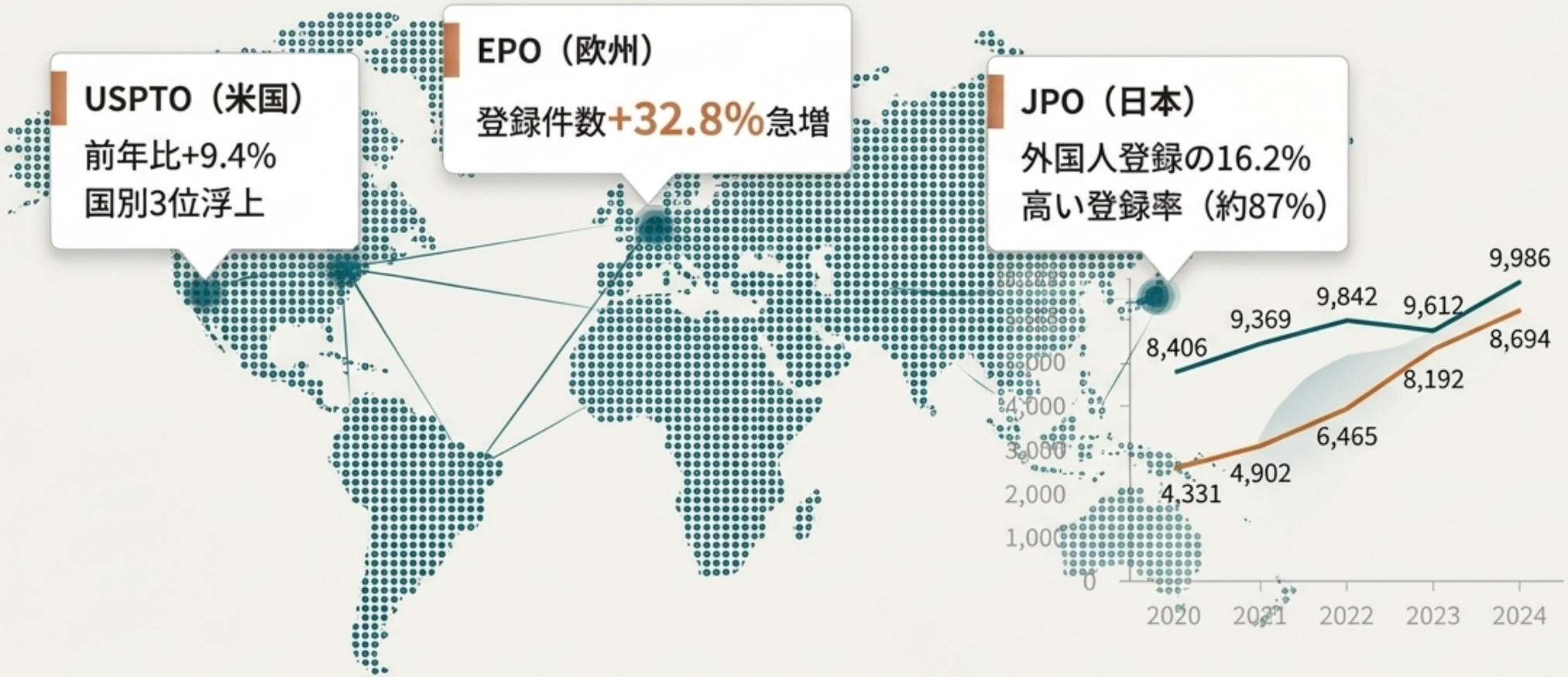
半導体：国内に閉じた引用ネットワーク



Key Takeaway:
AIも半導体も、圧倒的な出願量を誇るものの「国内向け」の性質が強い。
国際的な影響力や引用ネットワークの構築はまだ黎明期にある。

Gemini Notebook

Global Footprint：三極（日米欧）での急激な侵攻



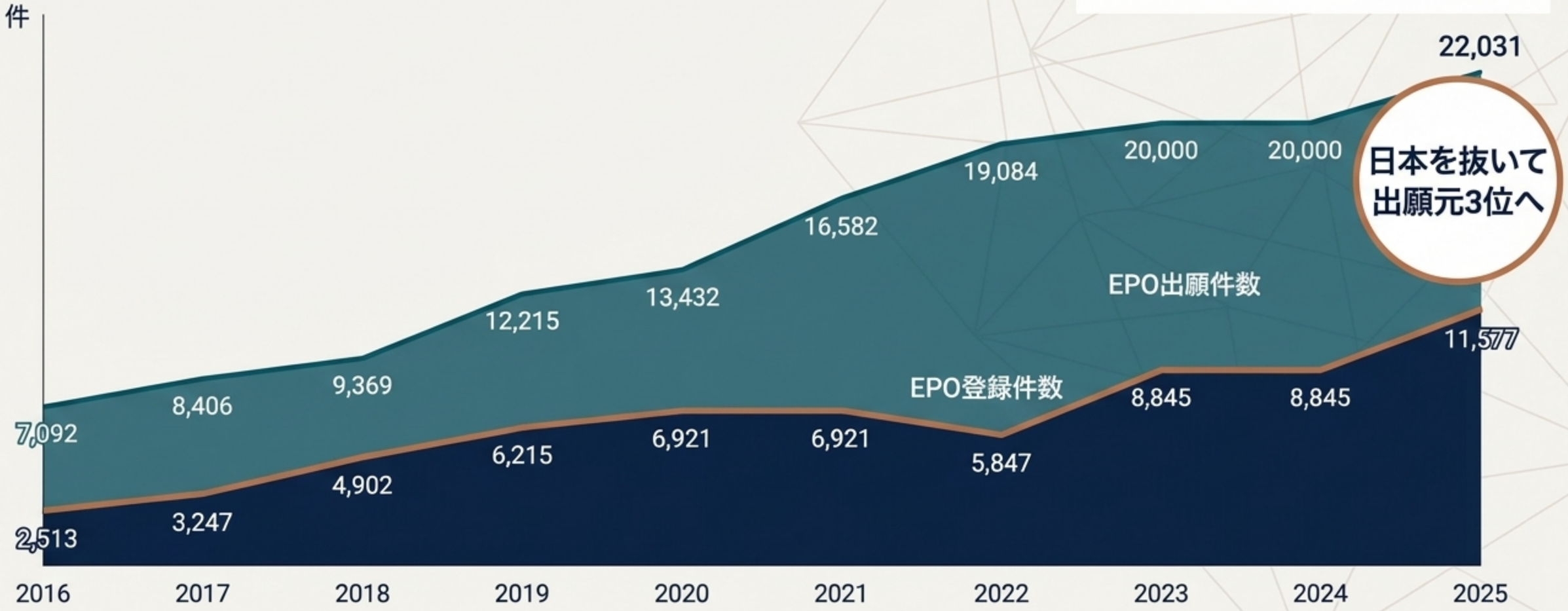
Summary: JPOに持ち込まれる中国出願の登録率は約87%に達する。これはPCTを経由し「勝てる」と見込まれた精鋭案件のみが日本へ流入している証拠である。

Gemini Notebook

欧州市場の地殻変動：EPOでの圧倒的躍進

Insight:

登録件数も前年比+32.8%（11,577件）と急増。さらに、中国出願の22.6%が単一効特許（UP）へ移行しており、欧州全域での権利行使（UPC訴訟リスク）への布石が着々と打たれている。



Gemini Notebook

知財の死角：「中国語の先行技術」という巨大な見えない壁



中国特許は他国から引用されにくい。しかし、それは「先行技術が存在しない」のではなく、**「中国語の公報が検索・引用されていない」**だけである。

米国でも調査不足が指摘されており、無効資料調査やFTOにおいて致命的な**盲点（Blindspot）**となっている。

Gemini Notebook

The Strategic Playbook：日本企業のための知財アクション

1. 先行技術調査

AI・半導体分野では、機械翻訳とCPCを駆使し、中国語公報（CNIPA公開公報）を必須の調査範囲に組み込む。

2. FTO＆リスク管理

通信・電池分野の主要プレイヤー（Huawei, CATL等）の日米欧での登録動向を監視。EPOでのUPC訴訟リスクを評価する。

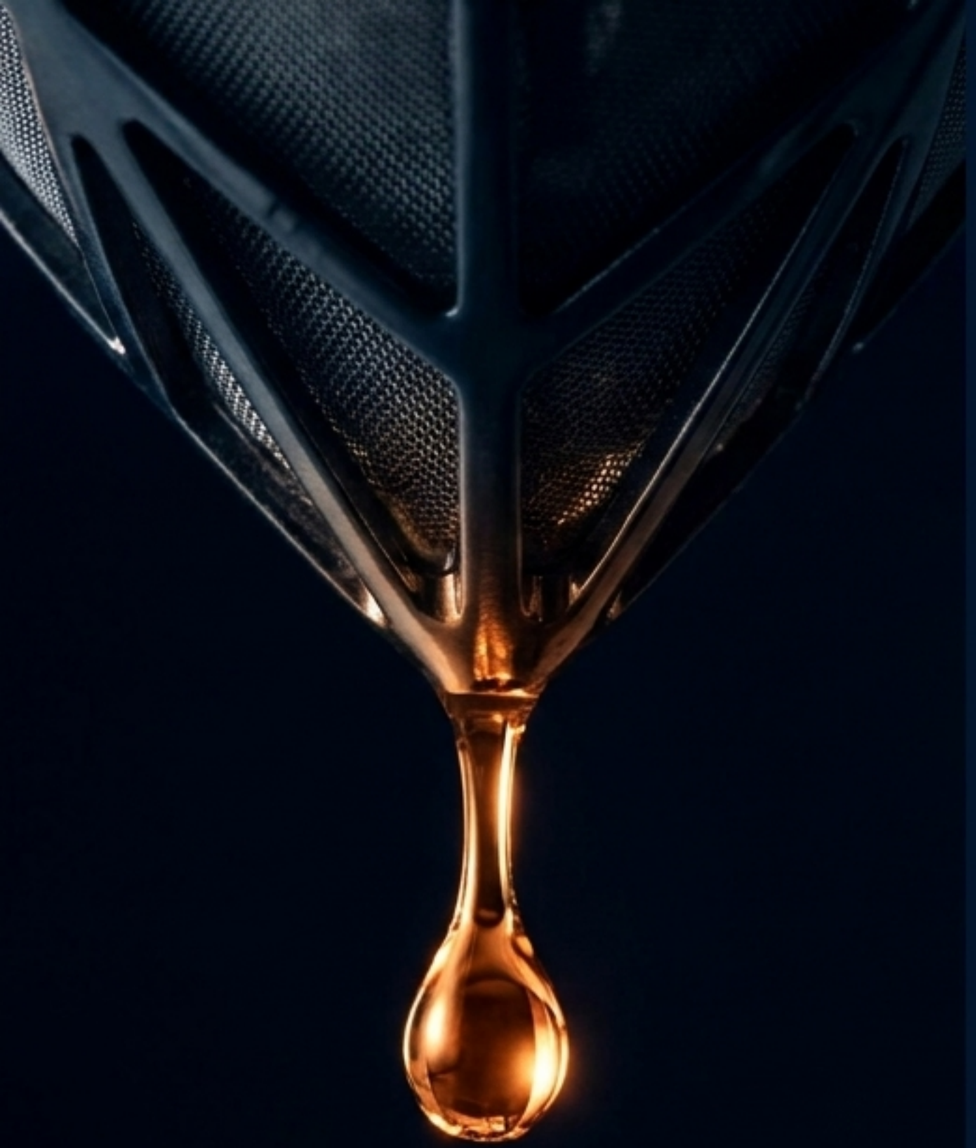
3. SEPライセンス交渉

5G等の通信分野では、単なる「宣言件数」ではなく、必須性を検証した「コアSEP比率」に基づき交渉力を再評価する。

4. 日本優位領域の防衛

全固体電池など、日本が「質」で勝る領域においては、欧州・中国への出願を厚くし、特許網の広さで量の差を無効化する。

Gemini Notebook



Conclusion

中国特許を「平均値」で測る時代は終わった。

巨大な国内プールから濾過され、抽出された「精鋭化された国際ファミリー」こそが真の競争相手である。 我々は、この高純度な脅威に照準を合わせ、グローバルな知財戦略を再構築しなければならない。

Gemini Notebook